

大久保公民館 50 周年について

昨年度、習志野の社会教育の根幹であった「菊田公民館が創立 50 周年」を迎え、「記念誌」を発行しています。

多分、本年、ないし来年あたり、旧称「大久保公民館」が開館 50 年を迎えます。

昭和 42 年、市民会館から昭和 48 年「大久保公民館を社会教育施設」に機能変更し、

そして、2019 年末にコミュニティセンター(プラッツ習志野という集会、貸施設)として「中央公民館」を再築しました。(社会教育法に準ずる公民館の認可、事前協議はなされていない)←(県は従来通り認可協議を継続している)

生涯教育複合施設としてのプラッツ習志野は、民間団体に管理運営が委託され、一応共同で公民館、図書館 体育館機能・事業が付加されました。

しかしながら、施設機能・事業の根源である「社会教育法の趣旨」に沿う教育的な配慮に基づく事業活動からは遠ざかり、貸施設や貸図書、カルチャーセンター、コミュニティセンターに機能がなりつつあります。

本当に市民が望む方向なら問題ありませんが、やはり、社会教育的な配慮(市民の学習活動(リカレント教育の振興への条件整備、学習課題、内容、方法の研究)に今後も十分配慮すべきと思われます。

かつて、各公民館では毎年、その年の「活動の記録」を作成し、市民の「学習成果」を公表しています。それぞれの公民館の社会教育活動機関としいの様子が変わりません。

旧称、大久保公民館が、まもなく 50 年目の活動に至ります。

菊田公民館に続き、本市の社会教育の中核です。是非に「50 年の活動」を総括し、これからの**社会教育の展望**を図ってほしいです。

民間指導の生涯学習プラッツ習志野では、それなりの市民のエンタテイメントは満足されますが、市民にとって重要なのは、「**現代的な学習課題や情報知識・技術についての学習や、リカレント教育**」についての十分な配慮、学習、施策を図るべきではないかと思えます。

施設再生論の域を超えた「社会教育理念に基づいた教育論」が重要です。

50 年を機会に改めて「習志野の社会教育の振興、展望について」議論していただきたいと思えます。

50年の記録誌がどう調製されるのか、期待されます。

平成11年ごろまで職員の研修資料として事業活動の指針として活用していました。菊田公民館50周年記念展に公民館の活動の記録冊子とともに展示されました。(写真は袖ヶ浦公民館の資料です)

(袖ヶ浦公民館在職中に作成された記録資料です。)



事業体系(平成11年ごろに調製されていた資料)

<https://1drv.ms/x/s!AuvIo2mBa-WPgvh0mXzAWM7KJzB9ew>

実践プラン

指導の考え方

- 何をするのか
- どの手順で実施するのか
- 活動にどれくらいの時間をかけるのか
- 何のためにするのか

学習過程

- ・ 関心・意欲・態度
- ・ 思考・判断・表現
- ・ 資料活用の技能
- ・ 知識・理解

進行表

- 授業はフルコース料理
- 料理に不可欠なエッセンス
- 料理を楽しんでもらうための一工夫
- 最後に



まとめ 反省 評価

「指導案」の作成は「最高の授業活動」を展開するために必要不可欠な作業です。

まち探検グループ学習についての事例

https://1drv.ms/x/s!AuvIo2mBa-WP7josUFKa2Z_v3kq0

ついでに大久保図書館の展望について

図書館の未来について

欧米では、図書館のライブラリアンと資料館のアーキビストは専門職で、激動の時代、重要戦略のインテリジェンス(情報分析業務)を担っている。

ライブラリアンは出版物の収集、保存、提供等の定型業務を通して、軍事、外交、生活・文化等の深層に訴えるアーカイビングの役割を果たしています。

日本では、図書館を勉強の場、あるいは資料の貸出しの場というイメージで、ハコもの行政の枠の中で、ライブラリアンが官と行政の論理に縛られ、受け身になり、図書の貸出し係になり下がっている。

公共図書館を育てるとは、欧米や日本での議論や実践を踏まえて、市民生活の場に見合ったアーカイビングを支援する図書館像を示し、図書館は、現在、集客力の大きい公共施設になっているが、これに民間的な手法をおり混ぜることで、地域活性化に欠かせない「知的なクリエイティビティ」が醸成され、加味されることを期待したい。

社会教育主事に期待する

「現状」を「ありたい未来」に向けて変えていくための社会教育活動

地域や社会の課題とは、「地域や社会の置かれている現状」と「ありたい姿」の間にある差異を指します。

そしてその差異を埋めるために大切なのは「仲間とともに主体的に学ぶこと」と「学んだことを形にする活動」です。

その取組は、経済優先により格差が広がる現代社会の現状を、人と人との関係性を大事にした社会に変えていこうとする社会教育活動としてもとらえることができます。

▽ その人の属するコミュニティにはさまざまな階層があることが大切
コミュニティという言葉の代表は、同じ地域を基盤に人が暮らす共同体ですが、
会の趣旨に共感した人同士が結びつきともに活動する共同体もコミュニティととらえることができます。

受講生の皆さんを例とすれば同じゼミ生同士や、大学でのサークル活動もコミュニティとしてとらえることもできます。

人が豊かに暮らしていくことができるためには、他者とのつながりはとても大切ですが、そういうつながりの場が一つではなく、階層の違うコミュニティをたくさん持っていることが大切です。

会員にとって豊かな暮らしを実現するためにとても必要なコミュニティとしてとらえられているのだと思います。

▽ あらゆる集団運営の場面に社会教育主事の役割がある

公民館主事や地域福祉コーディネーターという、職業としての社会教育主事の可能性について紹介してきましたが、今回は組織の活動を社会教育の側面からとらえて、そこに社会教育主事としての役割をとらえてみようと思いました。

このことをもう少し広げて考えてみると、会社のような組織においても「会社の現状」と「会社としての在りたい姿」の間にある差異を、会社に属する人たちがチームとなって学びながら埋めていく活動も、社会教育活動の側面からとらえることができ、社会教育主事として学んだことを活かすことができる場の一つであるととらえることができます。

つまり、あらゆる集団運営の場面に社会教育主事の役割を見つけることができるのではないかと考えています。